

平成 28 年度特別展を終えて

7月16日(土)から始まった夏の特別展『化内の辺境～隼人と蝦夷～』では、多くの方々に来館していただき、様々なご意見、ご指摘をいただきました(9月11日終了)。

展示期間中の7月31日(日)には、永山修一氏(ラ・サール学園)、八木光則氏(岩手大学平泉文化研究センター)を講師にお迎えし、特別展関連講演会「隼人・蝦夷とは何者か」を行いました。講演会には150人を越える参加があり、多くの方々が演者の話に耳を傾けていました。また、8月27日(土)には松崎大嗣氏(指宿市教育委員会)をお招きし、考古博講座Ⅱを行いました。こちらも大変盛況なものとなりました。

特に隼人に関しては、宮崎県が南九州という土地柄に含まれていることもあり、多くの方が興味をもっているだろうと思っていましたが、改めて隼人への強い関心や思い入れを知ることができました。

特別展を行うにあたり隼人という存在を肌で感じたいと思い、休日の時間を使い隼人の展示を行っている資料館や由来のある土地、史跡などへ足を運びました。そこでは多くの方々と出会い、隼人に対する考えや思いを聞くことができました。中にはとても熱を込めて話される方もいました。

今回の展示は、考古学の立場から隼人・蝦夷を捉えて構成したことにより、人によっては自分の中の隼人・蝦夷像とは違う印象を受けたり、もどかしさが残ったりした方がいらっしゃるかもしれません。ただ、考古学は現在まで残った痕跡から当時の社会を研究する学問ですので、考古学から分かったことは、ある意味かなり事実に近いといえます。

南九州という地域では多くの方にとって身近な存在である隼人ですが、思いが強いからこそ様々な隼人像ができてしまうのも事実です。場合によっては事実から大きく飛躍してしまっていることもあるでしょう。そんな中、講演会によって考古学や文献史学の専門家の考えが示されたことや、展示している考古資料を多くの方々に見ていただけたことは、大きな意義があったと感じているのです。

(沖野 誠)



隼人の首長^{※3)}とされる弥五郎どんの面

※1 永山修一 2009『隼人と古代日本』(株)同成社

※2 八木光則 2010『古代蝦夷社会の成立』ものが語る歴史21(株)同成社

※3 山口保明 2007『「弥五郎どん」とは何者か』みやざき文庫46 有限会社鉾脈社